



川越市立大東西中学校 学校だより

# きらめき

令和8年3月10日発行

第11号

川越市立大東西中学校

校長 小川 潤也

学校教育目標 『豊かな心を持ち、たくましい生徒 ～ 夢や希望をもつ生徒 ～ 』

○自ら考え、自ら学ぶ生徒 ○豊かな心を育む生徒 ○心身の健康に努める生徒

## 言葉の力～ありがとうでつなぐ3月～

校長 小川 潤也

今年度も残りわずかとなりました。先日の「3年生を送る会」は、気持ちのこもった温かい会となりました。感謝の気持ちを、言葉だけでなく態度や行動で示している姿が多く見られ、私の心にも強く残りました。西中学校の温かな雰囲気を変えて感じる時間でもありました。

3年生は、まもなく卒業式を迎え、義務教育9年間で修了します。また、1・2年生もすぐに新しい学年へと進みます。

この3月という節目の時期に、改めて「言葉」について考えてみたいと思います。私たちは日々の生活の中で、誰かの言葉に励まされたり、元気をもらったりすることがあります。

最近、誰かから言われた言葉で「助かった」「元気が出た」「救われた」と感じた経験はないでしょうか。私にはあります。忙しい朝や少し疲れている日でも、廊下ですれ違う生徒の皆さんの「おはようございます」という一言に、「よし、今日も頑張ろう」と元気をもらうことがあります。たった一言でも、人は前を向くことができるのだと日々感じています。

一方で、何気なく言われた言葉が心に残ってしまうこともあります。「別に」「どうせ無理」「つまらない」「うざい」「うるさい」などの言葉です。そんな言葉が、相手の心に重く残ってしまうこともあります。すでに生活の一部となっているインターネットやSNSなどでは、文字は消すことができても、心に残った言葉は簡単には消えません。言葉は目には見えませんが、確かに人の心を動かす力を持っています。だからこそ、私たちは日頃から言葉を大切にしていきたいものです。

「ありがとう」は、よく「魔法の言葉」と言われます。「ありがとう」は「有ることが難しい」と書いて「有難う」。当たり前ではないことに気づいたときに、自然と生まれる言葉です。

3年生のみなさん、この学校を支えてくれて、ありがとう。

1・2年生のみなさん、これからこの学校を引き継いでくれて、ありがとう。

学校という場所は、毎年メンバーが入れ替わります。しかし、気持ちや思いはつながっていきます。どうか心の中でも構いません。この一年をともに過ごしたすべての人へ、「ありがとう」という気持ちを持って過ごしてほしいと思います。できれば、その言葉を声に出して伝えてみてください。その一言が、この西中学校をより良い学校にし、より温かい学校として次の一年へとつないでいく力になるはずです。

言葉は、人の心を温かくする大きな力を持っています。

何気ない一言が、誰かの一日を明るくすることもあります。

これからも「ありがとう」や「おはようございます」といった温かな言葉が自然に行き交う西中学校であってほしいと願っています。そして、その優しい言葉が、皆さんのこれからの人生の中でも、人と人をつなぐ大切な力になっていくことを願っています。